

## 【高等学校の部】優秀賞

## 全ての人が過ごしやすい街へ

学校法人 扇城学園 東九州龍谷高等学校 3年  
小倉 光夏

「過ごしやすい街」とは、どのような街でしょうか。多くの娯楽施設があり、発展している街、もしくは、そのような街に移動しやすい街などが考えられますが、その定義は人それぞれで、正解はないと思います。

私の考える過ごしやすい街とは「誰もが等しく、自分らしく暮らせる街」です。人は一人ひとり違います。考え方や好み、身体能力や抱えている問題まで、全く同じという人はいません。そのような人たちが1つの街に何万という単位で暮らしています。全ての人の過ごしやすさを追求した時、最初の段落に挙げたようなことは、最優先されるものではありません。それらは、過ごしやすさの基礎が築かれた後に、追求していくものだと思います。

もし、あなたが便利で楽しい街と思って暮らしているとしても、その街に過ごしやすさの基礎が築かれているとは限りません。なぜなら、自分の立場から判断しているだけという可能性があるからです。

私は、周りのことを知っているようで知らなかったという事実、最近になってやっと気づきました。今年の春、部活動でチラシ配りをしていた時、1人の聴覚障がい女性に出会いました。彼女は、配っていたチラシについて質問があったらしく、声をかけてくれました。耳が不自由なことは、手渡した時にジェスチャーで教えてくれたので知っていました。しかし、筆談をするための筆記具を持っておらず、また、このような経験が初めてだったため、焦ってしまい、彼女の伝えようとしていることをうまく理解できませんでした。すると、彼女は申し訳なさそうな顔をしながら、「大丈夫だから」と身振り手振りで示してくれました。その時のやり取りでは、彼女が本当に聞きたかった内容は分かりませんでした。

結局、彼女は聞くことを諦めてしまいました。私にとっては、筆談ができず、仕方がなかったと思う初めての経験となりました。ですが、彼女の立場に立って改めて考えると、対応できなかったことに悔しさを感じました。今回のような出来事は、彼女にとってきっと珍しいことではなく、日常的に何度も似たような経験をして、その度に諦めているのではないかと思いました。耳が聞こえないこと、目が見えないこと、身体の一部が動かせないこと、あるいは高齢者であることによって、その方々が何かを諦めるということが、当たり前であって良いはずがありません。

その方々が諦めずにすむように、私は当たり前になってしまっているこの現状を変えたいと考えています。その人たちが抱えている生きづらさは、普段見えづらい所にあります。私が無気なく過ごしている環境の中で、苦悩している多くの人があります。その声に耳を傾ける力をつけて、1人でも多くの方が笑顔で過ごせる街を作るために貢献したいと思います。短期間で全てを改善することは困難です。しかし、全ては難しくても少しずつ環境が変わっていけば、皆が同じスタートラインに立つことができ、私が考える「過ごしやすい街」ができあがるように思います。